

岐阜市は斎藤道三や織田信長など名高い戦国武将が活躍した舞台です。道三・信長は何故岐阜市を選んだのでしょうか？英雄たちが欲しがった岐阜！その歴史を作ってきた武将や武士団、彼らの知られざる活躍と一緒にひも解いていきましょう。身近なところにある歴史が、新たな気付きにつながるかもしれません。

一柳氏と岐阜



岐阜市ぎふ魅力づくり推進部 文化財保護課

特任研究員 **内堀 信雄**

プロフィール

昭和34年 栃木県宇都宮市に生まれる
昭和61年 名古屋大学大学院文学研究科(考古学)卒業

岐阜市教育委員会にて信長公居館跡発掘調査などを担当。

主な著書

『東海の名城を歩く 岐阜編』
(共編、吉川弘文館、令和元年)
『戦国美濃の城と都市』(高志書院、令和3年)

一柳氏は伊予国(愛媛県)守護河野氏の一族で、大永年間(1521)〜1528年に岐阜市西野にやってきて土岐氏に仕え、一柳と名乗ります(『寛政重修諸家譜』、以下「諸家譜」)。今回は羽柴豊臣秀吉が出した同時代の史料を集めた『豊臣秀吉文書集』(以下「文書集」)や『一柳家記』(1641年作成、以下「家記」)などから、近世大名家の基礎を築いた直末・直盛兄弟の活躍を見ていきます(図1)。

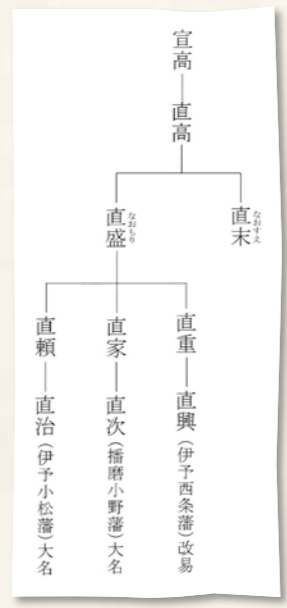


図1 一柳氏系図

秀吉軍が大敗した直後には戦死した岐阜城主池田元助に代わり、秀吉養子の羽柴於次秀勝(信長四男)が岐阜城に入ります。この時、秀吉は直末に対して「(於次のところは)皆若輩者なので直末が精を入れて申し付けよ」と命じています(『文書集』)。

1585年9月4日、秀吉は大垣城将・直轄領代官の役職を加藤光泰から直末に交替します。その後大垣城を拠点に兵糧米の準備や蔵の建設などを急いでいる(『文書集』)ことからみて、この事件は家康との再度の戦争を想定し、兵站基地として大垣城を活用するため

1 一柳直末

直末は1546年岐阜市西野の生まれで、1570年に秀吉に仕えます(『諸家譜』)。1572〜3年の小谷城攻めの手柄により、秀吉の黄母衣衆の一人に選ばれ、感状と250貫の知行が与えられます(『家記』)。

1584年に秀吉と徳川家康が直接戦った小牧・長久手の戦いのうち、4月9日の長久手の戦いで

直末は1546年岐阜市西野の生まれで、1570年に秀吉に仕えます(『諸家譜』)。1572〜3年の小谷城攻めの手柄により、秀吉の黄母衣衆の一人に選ばれ、感状と250貫の知行が与えられます(『家記』)。

1584年に秀吉と徳川家康が直接戦った小牧・長久手の戦いのうち、4月9日の長久手の戦いで

直末は1546年岐阜市西野の生まれで、1570年に秀吉に仕えます(『諸家譜』)。1572〜3年の小谷城攻めの手柄により、秀吉の黄母衣衆の一人に選ばれ、感状と250貫の知行が与えられます(『家記』)。

1584年に秀吉と徳川家康が直接戦った小牧・長久手の戦いのうち、4月9日の長久手の戦いで

2 一柳直盛

直末弟の直盛は、1564年兄と同じく厚見郡の生まれです(『諸家譜』)。1583年の賤ヶ岳合戦では先駆け衆の一人として活躍しますが、陪臣であるため感状ができませんでした(『家記』)。1590年小田原の役で兄直末が亡くなった後、尾張国黒田城主となります(『諸家譜』)。1592年に始まる朝鮮出兵の際には、秀吉の命で軍船「大安宅船」を作っています(『文書集』)。また、1594年には木曾川堤防普請を行っています(『文書集』)。

1600年8月22日、関ヶ原合戦前哨戦では木曾川を一番に渡り、米野の合戦でも手柄をたてます(『家記』)。翌8月23日の岐阜城攻めの際の瑞龍寺山砦攻略にも功績がありました(『家記』)。その後、9月上旬には石田三成のいた大垣城の押さえとして長松城(大垣市)の城番を務めます(『家記』)。

1601年、関ヶ原合戦の手柄

3 岐阜県内に残る一柳兄弟の遺産

江戸時代に書かれた『濃陽志略』には、岐阜市西野町の本願寺岐阜別院は一柳直盛の館跡と記されています。この一帯は周囲よりも高い地形であり、過去の試掘調査では16世紀頃とみられる遺物が確認されています(写真1)。大垣城



写真1 本願寺岐阜別院(西から、井川祥子氏撮影)



写真2 米野の戦い標柱・説明板

の墓伝承地などがあります。また8月23日の瑞龍寺山の戦いの砦跡も金華山ドライブウェイ沿いに残されています。

次回(12月号)は12月号です。お楽しみに

* (参考文献) ● 統計書類従元成会1995『新訂寛政重修諸家譜 第10』 ● 統計書類従元成会1992『統計書類従 第20輯下』 ● 吉川弘文館2016・2023『豊臣秀吉文書集 2〜6』 ● 大衆書房1970『濃州傳記・濃陽志略』